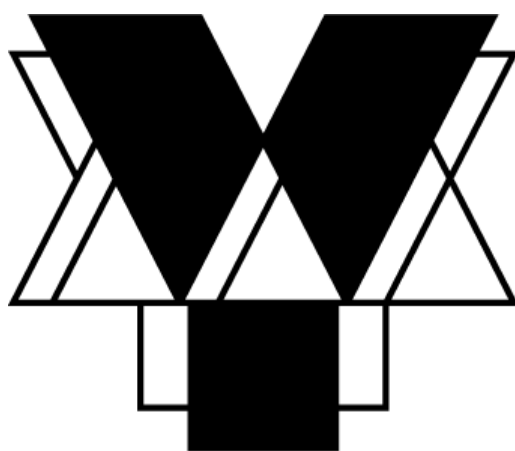


平成26年度

事業計画



2014（平成26）年3月

公益財団法人横浜市体育協会

【 目 次 】

I 事業方針	1
II 事業計画	1
1 競技スポーツの推進事業【定款第4条第1項第1号、第4号】.....	1
2 地域スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】.....	3
3 健康・体力づくり事業【定款第4条第1項第1号、第3号】.....	5
4 障害者スポーツ等支援事業【定款第4条第1項第5号】.....	6
5 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】.....	7
6 スポーツ情報の収集・提供/調査研究【定款第4条第1項第2号】.....	8
7 スポーツ施設運営事業【定款第4条第1項第5号】.....	9
8 スポーツ団体等育成事業【定款第4条第1項第1号】.....	18
9 協会運営事業【定款第4条第1項第6号】.....	18

I 事業方針

《着実な成果につなげていく大切な一年》

私たち体育協会は、子どもから高齢者まで全ての市民がいきいきとした生活を送るとともに、地域住民の交流や心豊かなくらしができるよう、今まで以上に子どもの体力向上や市民の健康づくり、競技力向上事業等に取り組んでいきます。

また、世界トライアスロンシリーズ横浜大会やフルマラソン大会等の大規模スポーツイベントを開催しスポーツを身近に感じ、スポーツを親しむ機会を拡充していくとともに、スケートリンクの建設整備事業の開始、第3期指定管理者の再選定に向け結果が残せるよう環境整備をすすめていきます。

当協会の財政状況は非常に厳しい状況となっています。協会が存続継続するためには、自主財源の確保に向け新規事業に積極的に取り組む一方で、これまで取り組んできた事業については事業内容や業務の進め方の見直しに努め、新たな第3期中期経営計画を策定して着実な成果につなげていきます。

市民のみなさまをはじめ、すべてのお客様・参加者の皆様にご満足いただけるよう、協会理念である「いつまでもスポーツが楽しめる 明るく豊かな社会の実現」に向けて一層取り組んでいきます。

II 事業計画

1 競技スポーツの推進事業【定款第4条第1項第1号、第4号】

(1) 競技スポーツ助成事業

加盟競技団体や加盟地域団体等が主管する各競技会・大会等の活動に対して必要な支援・助成を行い、市民が競技スポーツを始めるきっかけのみならず、楽しさを理解し、継続してもらえるようにします。

ア 第11回都市間交流スポーツ大会

(開催地:大阪市 実施競技数:11競技 参加者数:500人)

イ 市民体育大会(実施競技数:33競技 参加者数:30,700人)

ウ 市民マスターズスポーツ大会(実施競技数:23競技 参加者数:6,600人)

エ 各区交流スポーツ大会(実施競技数:9競技 参加者数:2,100人)

オ 横浜市ジュニア競技力向上事業(実施事業数:16競技 参加者数:1,500人)

(2) 各種スポーツ競技大会支援事業

競技会・大会の開催を円滑に行うため、大会運営組織に参画等して支援活動を行います。

ア 2014 世界トライアスロンシリーズ(WTS)横浜大会(2014 世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会)

トライアスロン最高峰の国際大会

横浜・山下公園をスタート、フィニッシュにした特設コース

① パラトライアスロンの部(一般参加の大会)

開催日：平成 26 年 5 月 17 日(土) 開催予定

参加者数：60 人

② エリート部の部(トップアスリートの大会)

開催日：平成 26 年 5 月 17 日(土) 開催予定

参加者数：130 人

③ エイジの部(一般参加の大会)

開催日：平成 26 年 5 月 18 日(日) 開催予定

参加者数：1,500 人

イ 第 5 回横浜シーサイドトライアスロン大会(横浜シーサイドトライアスロン大会実行委員会)

開催日：平成 26 年 9 月 28 日(日) 開催予定

会場：横浜市海の公園、横浜・八景島シーパラダイス、金沢工業団地周辺コース

参加者数：1,000 人

ウ 第 6 回横浜国際女子マラソン大会

開催日：平成 26 年 11 月 16 日(日) 開催予定

会場：横浜・山下公園をスタート、フィニッシュにしたフルマラソンコース

参加者数：300 人

エ 横浜マラソン 2015(横浜マラソン組織委員会)

開催日：平成 27 年 3 月 15 日(日) 開催予定

会場：パシフィコ横浜をスタート・フィニッシュの拠点として、市内中心部の観光名所や横浜港の風景を楽しめる景観を重視したコース

種目：フルマラソンほか

参加者数：25,000 人規模

(3)スポーツ大会派遣事業

競技会・大会への選手派遣、選手選考に必要な支援・助成をします。

ア 第 69 回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会

開催日：平成 27 年 2 月 開催予定

会場：秦野～相模湖

参加者数：横浜市選手団 20 人、横浜市走路員 20 人

イ 全国健康福祉祭大会(ねんりんピック)参加選手選考

開催日：平成 26 年 5 月 18 日(日)までに実施予定

会場：市内 9 会場

実施競技種目：9 競技

参加者数：320 人

(4)競技選手の個別支援

国体参加選手のメディカルチェック、競技選手の S P S (スポーツ版人間ドック)・体力測定・スキルチェック、スポーツによる障害の治療、リハビリテーション、予防等を行います。

ア SPS・体力測定・スキルチェック

開催日：年間を通じて実施

会場：横浜市スポーツ医科学センター

イ スポーツ障害の治療・リハビリテーション・予防

開催日：年間を通じて外来診療等で実施

会場：横浜市スポーツ医科学センター

2 地域スポーツ推進事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 5 号】

(1)地域スポーツ連携事業の実施

ア 区体育協会等の地域団体との連携

日頃から区民に密着した活動を行っている区体育協会と連携協力して、各区のスポーツ振興を支援します。また、スポーツ推進委員や地域のさまざまなスポーツ関連団体などとも連携し、スポーツ活動の活性化に寄与します。

イ 総合型地域スポーツクラブ育成事業

さまざまな世代の方々が、身近な地域で気軽にいろいろなスポーツが楽しめる「総合型地域スポーツクラブ」の設立と活動を支援します。

ウ さわやかスポーツの普及(参加者数 205,000 人)

市民一人ひとりが体力や興味に応じてスポーツ活動を楽しみ、健康体力づくりの維持増進を図っていくために、いつでも気軽にできるさわやかスポーツの普及・振興を図ります。また、さわやかスポーツの活動を通して、地域の交流や絆を深め、よりよい地域社会づくりに貢献することで、明るく潤いのある市民生活を送ることができる社会の実現に寄与します。

エ 10月の体育の日を中心とした横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催
(会場:市内38か所、参加者数:48,200人)

各区スポーツセンター、市内野外活動施設及び大規模施設等において、市民が気軽に各種スポーツに参加できる「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2014」を開催します。

オ 横浜熱闘倶楽部

市民とともに地元プロスポーツチームの支援を行い、市民が誇れるプロスポーツチームが育つ街の実現を目指し、チームと連携を図りながら事業を進める横浜熱闘倶楽部を通じて、市内学校訪問事業や市民招待等、各種事業を実施します。

(2)スポーツイベントの実施

スポーツの普及振興を図るため、各種スポーツイベントを開催します。

ア フィットネスヨコハマ

開催日:平成26年5月5日(月・祝)

会場:パシフィコ横浜国立大ホール

参加者数:7,000人

イ YOKOHAMAビーチスポーツフェスタ

開催日:平成26年7月26日(土)、27日(日)、8月2日(土)、3日(日)

種目:ビーチバレー、ビーチサッカー、ビーチハンドボール、ビーチテニス

会場:横浜市金沢区海の公園ビーチ

参加者数:3,900人

ウ ヨコハマ・ワールド・ウォーク

開催日:平成26年9月14日(日)

コース:みなとみらい21、山手、山下地区

スタート及びゴール:みなとみらい線馬車道駅

参加者数:5,000人

エ グレートアロハラン&ウォークツアー連携事業

開催日:平成27年2月

内容:ウォーキング事業推進の一環として、市民を対象としたホノルルで開催するウォーキングイベントに旅行会社と連携をし、市民の参加を促します。

参加者数:80人

オ よこはまシティウォーク

開催日:平成27年3月

種目:ウォーキング(10km・15km・20km・30kmコース)

スタート及びゴール:みなとみらい線馬車道駅

参加者数:3,000人

3 健康・体力づくり事業【定款第4条第1項第1号、第3号】

(1)子どもの体力向上事業

地域スポーツ団体や地域のボランティア等と協力し、学校等の身近な場所で子どもの体力向上支援の事業を実施します。

ア 子どもの体力向上支援(146 団体)

次世代を担う子どもが心身ともに健全に発達し、幼少期に体を動かす楽しさを知ること、生涯を通じてスポーツに親しめるきっかけづくりとなるよう、幼児から小学校児童向けの子どもの体力向上に資する事業を幅広く実施します。

イ スポーツ少年団

ジュニアスポーツクラブの普及と育成および活動の活性化を図り、スポーツを通じて青少年の心身の健全な育成と、生涯スポーツ・スポーツ文化の普及・振興を図ることを目的とします。

また、日独スポーツ少年団同時交流事業として、ドイツ少年団の受入を実施します。

ウ ぜん息児童の健康づくり事業(サマースクール 参加児童数;112 人、スポーツ医科学センターぜん息児水泳教室 参加児童数;30 人)

横浜市教育委員会が実施する、横浜市立小学校3年～6年生のぜんそく児童に対し、3泊4日の宿泊事業において、教育的・医学的観点から規則正しい集団生活を経験し、自身の力で健康を取り戻す意欲を喚起できるようなプログラム展開を図ります。

また、スポーツ医科学センタープールでは、ぜん息児水泳教室を実施します。

エ よこはまこどもマリンスクール(参加児童数;176 人)

横浜市内在住、在学の小学4～6年生を対象とし、帆船日本丸や南伊豆臨海学園などの海に関する施設を活用して、1年間を通して活動します。水泳・カッター操船などの実技、集団生活を通しての自主性・協調性の養成など心身の鍛錬を行うことにより、21世紀を担うたくましくおおらかな“はまっ子”を育てることを目的としています。

(2)健康づくり支援事業

超高齢社会の中、元気な高齢者を増やし、高齢になっても生き生きとした生活を維持することができる環境を整え、スポーツ・運動を習慣化するために各種事業を実施します。

ア 健康づくり派遣指導事業(参加者数 13,500 人)

「地域における健康づくり」をキーワードに、①日常的な運動習慣を習得できるプログラムの提供②地域と協働した健康づくりを主軸として、地域に根差した指導を推し進めていきます。また、横浜市健康福祉局からの介護予防関連事業(元気づくりステーション等)を積極的に受けることで、市民の健康づくりに寄与します。

- (ア) 介護予防関連運動指導
- (イ) 健康体力づくり派遣指導
- (ウ) ハマトレリーダー育成研修
- (エ) その他派遣指導

イ 健康づくり教材開発・販売事業

市民の健康づくりを高める物品として使用してもらえよう、認知度を高めることを目的に商品の PR・販売サービスを提供します。

- (ア) はまちゃん体操関連商品販売
(DVD・CD・テキスト・はまちゃん体操アプリ)
- (イ) 「介護予防運動テキスト」販売

ウ 健康づくりサービス事業(参加者数 3,400 人)

当協会の管理運営施設や、区役所、地域施設、地域団体等が主催する「スポーツ事業」「健康づくり事業」において、体力や姿勢・歩行などの測定を実施し、地域の健康づくりを図ります。

- (ア) 体力測定事業
 - ・姿勢測定
 - ・歩行測定
 - ・簡易体力測定
- (イ) 効果測定教室事業
 - ・姿勢改善教室

(3)生活習慣病予防事業

メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームの予防のための生活指導、栄養指導、運動等を行い、運動習慣をつけることにより健康を維持、増進させます。

ア メタボリックシンドローム予防事業

「メディカルエクササイズコース」、「特定健康診査・特定保健指導」、「減量教室」
会場：横浜市スポーツ医科学センター

イ ロコモティブシンドローム予防事業

「メディカルエクササイズコース」、「姿勢・歩行改善教室」
会場：横浜市スポーツ医科学センター

4 障害者スポーツ等支援事業【定款第4条第1項第5号】

(1)横浜こどもスポーツ基金活用事業

ア スポーツ観戦・交流事業

障害のあるこども達や恵まれない環境にあるこども達を対象に、市内4プロチーム等との交流事業・観戦事業を開催し、スポーツを通じて、こども達に夢と希望を持って育ち、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境作りを行います。

イ スポーツ・イベント交流事業

体育協会及び加盟団体が実施するイベント・教室等の事業において、健常者などと一緒に参加する機会を提供することで、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境をつくり、地域交流を図ります。

ウ 障害者スポーツ等普及・啓発事業

横浜こどもスポーツ基金に関する広報物の作成や、同様基金の先進事例を視察することなどにより、障害者スポーツ等のより一層の推進を図ります。

(2)障害者スポーツ団体等との連携強化

パラリンピックなどの競技性の高い障害者スポーツについて、関係機関・団体と連携・協力し、スポーツ事業の実施や自主的活動の支援を進め、障害者スポーツの推進を図ります。

5 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】

(1)地域スポーツ指導者養成・活用事業の実施

ア 横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座の開催

スポーツ及びレクリエーションなどの活動を通じて市民の健康・体力づくりを支援するため、さまざまな講座を開催して地域に根差した指導者や協力者を育成します。

講習会名	実施期間	会場	参加者数
健康・体力づくりインストラクター養成講座	6月～1月	スポーツ医科学センター他	40人
地域クラブアシスタントマネージャー養成講座 (日体協公認)	6月～1月	スポーツ医科学センター他	40人
アウトドアリーダー(野外活動指導者養成)講座	6月～1月	市内野外活動センター他	30人
レクリエーション人材養成講座	7月～11月	体協地下会議室他	30人
スポーツリーダー講習会(日体協公認)	6月	スポーツ医科学センター	100人
地域スポーツ研修	1月	スポーツ医科学センター	100人

また、上記養成講座修了者が登録する「横浜市スポーツ人材活用システム」登録者の指導技術向上のためのスキルアップ研修を年3回実施します。

イ 地域スポーツ指導者の活動促進

地域における多様なスポーツ活動や、健康の維持増進事業、高齢者の介護予防事業、子どもの体力向上事業など、当協会が行う各種事業に「横浜市スポーツ人材活用システム」登録者を指導者として積極的に登用して、活躍・活動の場を促進します。

(2)指導者技術向上補助事業の実施

競技スポーツの指導技術・審判技術などの向上を目的に、横浜市体育協会加盟の種目団体が開催する研修会等に、経費の一部を助成します。

(3)ジュニア競技力向上事業

ジュニアスポーツ選手の養成のための強化練習やスポーツ医科学に基づくプログラムの作成を行います。また、競技指導者の能力向上を図るためスポーツ医科学の知識を備えたジュニアスポーツ指導者の養成を図ります。

○ジュニア競技力向上事業の実施

- ・ 合同強化練習の推進
- ・ ジュニア医科学マルチサポートの実施
- ・ スポーツ医科学研修の開催

6 スポーツ情報の収集・提供/調査研究【定款第4条第1項第2号】

(1)スポーツ情報の収集・提供

ア スポーツ情報センターの運営

横浜のスポーツ情報全般の収集と提供を、窓口・電話・インターネット等を通じて積極的に行います。

また、市内のスポーツ情報の発信拠点として、「する」「見る」「支える」すべての人によって有益な情報を集約し、適宜発信することで、スポーツへの関心や実施率を高め、健康な市民生活を支援します。

イ スポーツ情報サイト「ハマスポどっとコム」の運営・拡充

スポーツ情報サイト「ハマスポどっとコム」により、横浜市内の最新のスポーツ・レクリエーション情報を幅広く収集・掲載・提供します。

また、ソーシャルコミュニティサイト FaceBook の活用やスポーツ大会の誘致につながるページを作成するなど、コンテンツの充実を図り、アクセス件数の増加を図ります。(アクセス件数 9,500,000 件)

① 「読む」コンテンツ

スポーツ情報課職員による取材や、市体協各部署・関係団体・市民からの投稿によりハマスポニュースを配信するほか、著名人コラム、市体協イメージキャラクターによるスポーツ漫画などを掲載し、市民・利用者にスポーツの楽しさや健康維持の大切さを伝えるとともに、スポーツに触れるきっかけづくりを行います。

特に市民の関心の高い大規模なスポーツイベント開催時等は各コンテンツで集中的に取り扱うことにより相乗効果が得られるように図ります。

また、スポーツ情報誌をWEB上に掲載するとともに、特集記事は英語版でも発信します。

② 「健康づくり」コンテンツ

ハマスポエクササイズによる動画配信、画面上でのトレーニングレッスンや閲覧者の運動記録管理、ウォーキングコースや健康遊具設置公園の案内などを行うことで、サイトを通じた利用者の健康づくり支援を行います。また、新たに子どもの体力向上につながるサイト作りも行っています。

③ 「探す」コンテンツ

市内のスポーツ施設、サークル、教室・大会等の案内や大会結果、指導者紹介などの情報を、地図やカレンダー、キーワード検索などにより提供します。また、大会等のイベント開催情報の情報提供量の増加を図ります。

ウ スポーツ情報誌「SPORTSよこはま」の発行

主に横浜市民を対象に、生涯スポーツの普及・振興を図るため、スポーツへの興味・関心への働きかけや健康意識の向上につながる情報を発信します。

また、横浜の推奨するスポーツ施策を紹介し、それを担う横浜市体育協会の各種事業を積極的にPRします。

発行；隔月6回（1号あたり30,000部、16ページ(通常号)／5回、24ページ（特別号）／1回）

◆掲載内容

時節や流行に則した特集記事の掲載、市内プロスポーツチームの選手や関連イベントの紹介
スポーツ医科学センターによる健康関連情報の掲載、読者参加型企画の連載、
地域スポーツ活動や生涯スポーツへの取り組みの紹介、市体協関連イベントの紹介や報告 等

(2)スポーツに関する調査研究

市民スポーツ意識調査等のスポーツに関係した調査・研究を通じ、横浜市スポーツ推進計画やスポーツ基本計画、スポーツ立国戦略の中で掲げられている、スポーツ・運動の実施率や取組み等について、横浜市における現状を把握します。また、市民の皆様のスポーツに対する様々なニーズや行動・意識を考察し、横浜市体育協会が取り組む各種事業の在り方を追求します。

(3)スポーツ医科学に関する情報の収集・提供及び調査研究

スポーツ医科学に関する情報の収集を行い、「ハマスポどっとコム」や「SPORTSよこはま」により市民へ提供します。また、横浜市スポーツ医科学センターでは、スポーツ障害と予防等の研究及び研究の成果を学会等でも発表してきます。

7 スポーツ施設運営事業【定款第4条第1項第5号】

(1)スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる場の提供事業

スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる場を提供するため、次の施設について安全・安心な管理運営を行います。

ア 指定管理施設の管理運営

横浜市スポーツセンター（15施設）、横浜国際プール、横浜文化体育館、横浜市平沼記念体育館、横浜市青少年野外活動センター（3施設）、横浜市少年自然の家（2施設）、新横浜公園/日産スタジアム、横浜市スポーツ医科学センター、横浜市栄公会堂

イ その他のスポーツ施設の管理運営

屋外プール（2施設）、屋内プール（6施設）、テニスガーデン（3施設）、横浜市鶴見川漕艇場、横浜みなとみらいスポーツパーク、たきがしら会館、神奈川スケートリンク

(2) スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる機会の提供事業

横浜市からの指定を受けたスポーツ施設やスポーツ医科学施設及びその他のスポーツ施設において誰でも気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできるプログラムを提供します。

ア 指定管理施設

横浜市各区スポーツセンター

横浜市各区スポーツセンター15館において、区民が身近なところで気軽にスポーツを楽しみ、健康の保持増進に努めることのできるよう、スポーツ・レクリエーション活動を推進します。

スポーツ教室事業は、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象として、充実したプログラムと多種目の教室を展開します。

また、スポーツだけではなく文化的な教室も開催し、地域コミュニティの形成に貢献します。

○自主事業

多くの区民にご利用いただくため、区役所やスポーツセンターの近隣にお住いの方などのご理解を得て、横浜市スポーツ施設条例で規定する利用時間以外の早朝や夜間の時間延長や、年末年始の利用日を拡大するとともに、利用者の利便性向上のためスポーツ用品等の販売やレンタルを行います。

また、地域に出向いてスポーツ活動を支援し、スポーツセンターを拠点とした区民のスポーツ振興を展開します。

横浜国際プール

当協会を代表団体とする共同事業体（他、コナミスポーツ&ライフ、トーリツ）による指定管理を受け4年目になる横浜国際プールでは、大規模イベントの誘致に努めるとともに、プールやトレーニング室等を個人や団体に利用していただきます。

さらに、スポーツ系・文化系の各種教室も数多く開催し、多くの市民に親しまれ利用いただける施設として運営していきます。

○大会・イベント

平成 26 年度は、日本学生選手権水泳競技大会・日本マスターズ水泳選手権をはじめとする大規模水泳大会のほか、冬期のスポーツフロアでは b j リーグ（日本プロバスケットボールリーグ）のチーム「横浜ビー・コルセアーズ」のホームゲーム・実業団テニスの日本リーグ・フットサル F リーグなどの開催も予定されています。

また、平成 27 年度以降の大規模競技大会等誘致に向けた活動にも努めていきます。

○教室事業

テニス教室は、平日は毎日午前・夜間に開催し、技術レベルにあった指導内容で実施します。フロアでの教室は、ピラティスやヨガ、健康体操、幼児体操、幼児・小学生向けサッカーなど、幅広い層の方々にご参加いただけるよう、多様なプログラムを提供していきます。

その他、これまでスポーツ施設に足を運んだことのないの方々にご来場いただけるよう、子ども向け（習字、アンサンブルなど）や大人向け（合唱、ハワイアンキルトなど）の文化系教室を開催します。

横浜文化体育館

体育館と文化ホールの性格を兼ね備えた横浜の中心的な総合施設です。交通にも便利な市の中心部に立地しており、地域、職域のスポーツやレクリエーションはもとより、国際的なスポーツ大会、各種集会・式典、コンサート等の文化的な催し物にも広く市民に利用されています。

また、本館の付属施設として、平沼記念レストハウスがあり、各種大会・行事の控え室としての利用のほか、一般の会議、集会、講習会などにも利用されています。

これらの施設特性を活かし、横浜市のスポーツや文化の振興に寄与できるような施設運営を目指します。

○大会・イベント

平成 26 年度は、平成 25 年度に引き続き国際大会である「ジャパンオープン・荻村杯 2014 国際卓球選手権横浜大会」を開催します。また、「第 29 回皇后盃全日本女子柔道選手権大会」、「JOC ジュニアオリンピックカップ；全日本ジュニアレスリング選手権大会、全日本ジュニア体操選手権大会」などの全国規模の大会から、市民参加型の大会や横浜市中学校総合体育大会各種目競技など幅広いスポーツ大会に利用いただきます。

また、b j リーグ（日本プロバスケットボールリーグ）のチーム「横浜ビー・コルセアーズ」のホームゲームや、子供達に人気が高いロシアの「国立ボリショイサーカス」、横浜市商店街総連合会が主催する「ハートフルコンサート」などの興行にも利用していただく予定です。

○教室事業

年3期に分けて実施する「定期教室」、当日受付で行う「特別教室」、各種目協会などと連携し、種目特性を活かして行う「各種スポーツ教室」、横浜熱闘倶楽部と連携した教室などのほか、絵画、書道などのカルチャー教室等のアンチ・エイジング応援プログラムを実施し、幅広い市民ニーズに応えられる教室事業を行います。

横浜市平沼記念体育館

三ツ沢公園内に建つ平沼記念体育館の管理運営を行います。

264の常設観覧席を有する特徴を生かした、スポーツ大会等の利用促進を行うとともに、故平沼亮三氏の功績を伝える資料を保管する展示室への来場を促します。

また、新たにランニングステーション事業を展開するなど、施設の立地環境を生かしてより多くの市民にご利用いただける施設づくりを進めます。

○教室事業

体育室や会議室にて、個人で参加できるスポーツ教室や文化教室を開催し、市民のニーズに即した教室事業を展開します。

横浜市青少年野外活動センター

市内の三ツ沢公園（神奈川区）、くろがね（青葉区）及びこども自然公園（旭区）の野外活動センターにおいて、気軽に野外活動を楽しむための活動場所の提供や、魅力あるプログラムを用意し、野外活動の普及振興を通して青少年の健全育成を推進します。

青少年育成団体や地域グループなどの団体のほか、託児サークルや家族単位での利用も促進し、施設の活性化を図ります。

○自主事業(教室事業等)

幼児から大人までの幅広い市民層に対応した野外活動教室やファミリーキャンプ、スポーツ・文化活動等の各種教室、バーベキュー講習会などを開催します。

また、野外炊事用の食材販売や、野外炊事用具、キャンプ用具などのレンタルを行い、利便性の向上及び利用促進を図ります。

横浜市少年自然の家

赤城林間学園（群馬県昭和村）及び南伊豆臨海学園（静岡県南伊豆町）において、山や海などの恵まれた自然環境を生かした自然体験プログラムや宿泊体験の場を提供し、集団活動の指導等を通じて、青少年の健全育成を図ります。

また、赤城林間学園では、地元昭和村との連携により周辺に広がる農地での農業体験プログラムを、南伊豆臨海学園ではカッターやシーカヤックなどの海での野外活動プログラムをそれぞれ充実させ、各地の特性を活かした施設運営を行います。

○自主事業

学校利用が少なくなる時期を中心に、子どもや家族などを対象としたスキーやカッター体験教室等の自主事業を開催し、学園の利用を促進します。

また、スポーツ競技団体や企業による研修等の合宿プランや、家族やバイクツーリンググループなどによる宿泊プランを充実させ、利用を拡充させます。

さらには、地元食材を活かした特別料理の提供をはじめ、ノルディックウォーキング用ポールやシーカヤック等の貸出しなどにより、利便性の向上を図ります。

新横浜公園/日産スタジアム等

横浜市体育協会・横浜マリノス・管理JV（ハリマビシステム他4社共同企業体）の3者が共同事業体を構成し、管理運営を行います。

市民に夢と感動を与えることができる国際大会の誘致をはじめ、公園内の各施設を活用し、地域スポーツの振興や市民の健康・体力増進に貢献します。さらに、スタジアムを使用するイベントだけではなく、公園全体を使用するような大型イベントの開催、会員制陸上教室や各種スポーツ教室の開催を通じて、市民の健康づくりと競技レベルの向上を図ります。

また、新横浜パフォーマンスなど地域との連携によるイベントやフリーマーケット、歳時記イベント（こいのぼり、凧揚げなど）のようなスポーツ以外での公園利用の促進を図ります。公園の園地を活用した市民提案型の活動（地域の伝統文化を体験し自然を学ぶ会など）やイベント運営・ツアーガイドの市民ボランティア活動を支援するなど、市民がより楽しんで参加できる事業を行います。

さらに、マイボトルの利用促進や雨水・再生水の利用、ISO14001の運用など、環境に配慮した「エコスタジアム」としての取組を推進します。

○主な大会・イベント等

- ・ももいろクローバーZコンサート（7月26日・27日）
- ・サッカー日本代表戦（9月9日）
- ・第94回天皇杯全日本サッカー選手権大会（12月13日）

○管理施設

- ・日産スタジアム（日本陸上競技連盟公認 第1種公認陸上競技場）

国内最大の7万2千人を収容できるスタジアムの特性を活かし、サッカー、陸上競技等の国際大会を積極的に誘致・開催します。また、大会以外にコンサートやイベント等を開催し、施設の有効活用を図ります。

- ・日産フィールド小机(日本陸上競技連盟公認 第3種公認陸上競技場)
- ・日産ウォーターパーク(温水利用型の健康増進施設)
- ・北側園地運動施設(野球場、第1・2運動広場、投てき練習場、テニスコート)
- ・新横浜公園内無料施設(スケボー広場、インラインスケート広場1・2、バスケットボール広場、草地広場、遊具広場)
- ・しんよこフットボールパーク(JFA公認人工芝コート)
- ・ドッグラン(登録制)

横浜市スポーツ医科学センター

市民の健康づくりの推進・スポーツの振興・競技選手の競技力の向上を目的に、クリニック、アリーナ(体育館)、プール、トレーニングルーム等を併設した施設の運営を行います。

○スポーツプログラムサービス(SPS)

医学的検査・運動負荷試験・体力測定の実施結果から、医師・管理栄養士・スポーツ科学員などの専門スタッフがアドバイスを行うスポーツ版人間ドックを実施します。また、横浜マラソン2015などの事業と連携をとり、SPS事業等をPRします。

○クリニック(内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科)

スポーツドクターなどの資格を持つ医師が診察を行うだけでなく、各科ともに運動療法を積極的に取り入れていきます。また、平成25年から実施している整形外科とリハビリテーション科の診療時間延長を平成26年度も継続し、診療体制の充実を図ります。

○メディカルエクササイズコース(MEC)

内科的・整形外科的疾患を抱え、積極的に運動することで改善が望める方を対象にした医学的運動療法教室を実施します。平成24年度から実施している、「膝」「腰」に特化した運動プログラムを引き続き提供していきます。

○トレーニングルーム・25m室内温水プールの個人利用

トレーニングルーム個人利用では、平成26年度は、利用者の利便性のさらなる向上を目指し、ポイントカードや紹介キャンペーンなどの事業を健康福祉局と調整しながら実施します。

○研修室・会議室、大・小アリーナの貸出事業

大研修室・中研修室・会議室および大アリーナと小アリーナの機能上の特性を活かして、一般貸出を行います。

○スポーツ教室事業(フォロー事業)

SPSのフォロー事業として「スポーツ教室」(水泳・体操・トレーニング教室)を実施します。児童対象の教室(水泳・体操)では、各種競技大会の出場を目標とした選手コースを設け、専門性の高い指導を行うクラブ形式での運営を行います。

○教室事業・イベント事業

「健康教室」では、「太極拳」や「フラダンス」等を行います。また、平成26年度は新規教室として「シェイプアップエクササイズ」「ハワイアンキルト」ほか6つの教室を開設します。

「減量教室」については、毎月申込ができる形態に変更するとともに、参加料の値下げ、定員枠の拡大を図ります。「姿勢・歩行改善教室」は、簡易的な効果測定種目に変更することで、定員枠を拡大し、利便性をアップします。

また、リハビリテーション科のスタッフが各種スポーツイベント会場に訪問する「出張相談」事業に加えて、野球によるケガ予防のための「少年野球クリニック」を事業内容を拡充して引き続き実施します。

○アスリート事業

競技力向上をサポートするため、主としてトップアスリートを対象にメディカルチェックや各競技に即した専門的な体力測定、スキルチェック等を行います。また、安全で効果的な競技やトレーニングを支援するため、一般ランナー向けのランニング測定事業を実施します。

さらに、各区少年野球連盟と協力をとりながら、少年野球のメディカルチェックを実施し、予防プログラムを開発・普及します。

平成26年度新規事業としては、新たに開設される横浜市立商業高等学校スポーツマネジメント科の教育内容及び競技力の向上等に関する連携と支援を実施します。

○その他

その他、ホームページを通じたスポーツ医科学情報の提供、研究成果の学会等での発表や市民への還元、スポーツ医科学に関する市民向け講演等を行っていきます。また、市体協職員全体に対するスポーツ医科学研修、運動療法実践も実施します。

イ その他のスポーツ施設

屋外・屋内プール

屋外プール2施設（横浜プールセンター、本牧市民プール）及び屋内プール6施設（旭、港南、栄、保土ヶ谷、都筑、金沢プール）の運営を行い、市民のスポーツ・レクリエーションの普及・振興、健康増進を図ります。

安全・安心・快適に利用していただくために、日々の安全管理の徹底に努めるとともに、気軽に参加できる水泳教室やイベントなどを開催し、多くの市民の方々に愛着をもって利用していただける施設運営を行います。

○教室・イベント事業

子どもや高齢者の体力向上や健康増進を目的とした、水泳や水中トレーニング等の教室事業や、集客数の多い休日に主に子ども向けの水泳大会等のイベントなどを開催し、家族みんなで楽しめる施設づくりを行います。

また、プール以外の諸室を使った体操教室などを展開し、施設の価値を高めます。

テニスガーデン

緑（10面）、根岸（9面、うちインドア3面）及び泉中央（11面）の各テニスガーデンにおいて、テニススクールの開催や貸しコート運営を行い、市民に対してテニスをはじめとするスポーツ活動の場を提供します。

○教室事業

ジュニア、一般初級者、上級者などの利用者のレベルニーズに合わせたテニススクールを開催します。またクラブハウス内や敷地内の空きスペースを有効活用して、腰痛や肩こり予防などをテーマとした健康づくり教室を開催し、より多くの市民にご利用いただける施設づくりを進めます。

○イベント事業・その他新規事業

教室参加者の交流大会などを実施しスキルアップを図ると共に、フリーマーケットなどのイベント事業を開催し、テニスに固定化しない新たな地域のための施設としての運営を行います。

横浜市鶴見川漕艇場

鶴見川漕艇場において、ボート・カヌーの利用、貸出し等の管理運営を行い、水上スポーツ・レクリエーションの普及・振興に寄与します。

○教室事業

より多くの市民が気軽に参加できるボート・カヌー等の教室を定期的で開催するとともに、会議室を活用したスポーツ教室事業を実施し、新たな利用層の拡大を図ります。

横浜みなとみらいスポーツパーク

みなとみらい21地区60街区にある(公財)日本サッカー協会公認の人工芝フィールドを備える「横浜みなとみらいスポーツパーク」の運営を行い、市民へのスポーツ活動の場を提供します。

フィールドではサッカー、ラグビー、アメリカンフットボール等の一般の利用を促進するとともに、関係団体や協賛会社との連携、協力を深め、大会・イベント等の企画、実施を積極的に行います。

また、クラブハウスにおいては、会議室をダンス等の活動の場として活かすほか、ランニングステーションとしても活用し、みなとみらい地区を走るランナーの拠点としての利用を促進します。

○教室事業

フィールドにおいて横浜マリノスと連携して親子サッカー教室を開催します。また、クラブハウス内の諸室を有効に使って、ヨガやピラティスなどの教室事業を行うほか、ランナー向け教室事業も定期的で開催します。

○イベント事業・その他新規事業

秋から冬にかけて、ランニングやサッカー、フットサルなどのイベントを実施し、多様なスポーツ活動の場として活かしていきます。

たきがしら会館

プロバスケットボールチーム「横浜ビー・コルセアーズ」の練習場としての利用に供するとともに、近隣の地域住民や団体、企業などの利用を促進します。

○教室事業・イベント事業

幼児から大人まで誰もが気軽に参加できる、健康づくりに貢献する教室事業やイベント事業を実施します。

また、横浜ビー・コルセアーズとの協働により、バスケットボール教室などを展開するほか、近隣の根岸地区センターとの協力によるスポーツ教室やイベント事業を開催します。

神奈川スケートリンク

○スケート事業

- ・アイススケートの事業を通じて、市民の健康と体力の向上や各種教室の開催、学校団体の体験活動を推進します。
- ・スケート教室は幼児から成人までを対象として、初めてスケート靴を履く初心者から選手育成クラスまで、それぞれのレベルに合った教室を開催します。
- ・幼稚園・学校団体向けに、教育の一環として位置づけられるようスケート体験教室を開催します。
- ・5月5日開催の児童福祉週間の協賛や7月21日開催の市民感謝デー等に小学生、幼児を無料開放し、行政・地域スポーツ行事へ協力します（参加者数600人）。
- ・スペシャルオリンピックスや特別支援学校等の障害者に、練習及び体験の場となる環境を提供し支援します。

○物販事業

- ・スケート用品店においては、専門スタッフによるカウンセリングをともなった用品、用具の提供とそのメンテナンスを実施します。
- ・飲食コーナーや自動販売機による飲食のサービスを行います。

○再整備事業

- ・関係団体及び地元地域と連携し、健全で安心して楽しめる施設として再整備事業を推進します。
- ・現敷地にて、国際規格のメインリンクなどを備えたスケートリンクに建替えを行うとともに、仮設リンクを設置し事業を継続していきます。

8 スポーツ団体等育成事業【定款第4条第1項第1号】

(1) スポーツ団体育成事業

ア 交流事業

横浜市のスポーツの分野で活躍・功労のあった方々及びスポーツ関係者との交流促進のため、「第49回新春横浜スポーツ人の集い」を開催します。

開催日：平成27年1月16日(金) (予定)

会場：横浜文化体育館(予定)

参加者数：1,200人

イ スポーツ表彰事業

体育・スポーツの進歩発展及び価値ある研究調査をなした者や各種スポーツ大会において、顕著な成績をおさめた個人・団体やスポーツ振興に寄与した個人を表彰する横浜スポーツ表彰を実施します。また、教育委員会表彰等の各種表彰への推薦を行います。

ウ 協力町村来浜事業

少年自然の家が設置されている、昭和村（群馬県）及び南伊豆町（静岡県）の児童が横浜への理解を深めることを目的とした教育施設協力町村児童受入れ事業を実施します。（2町村 参加者数約160人）

9 協会運営事業【定款第4条第1項第6号】

(1) 第3期中期経営計画および年次計画

平成26年度より、第3期中期経営計画を掲げ、計画目標の達成に向けて取り組みます。また、横浜市と共有する平成26年度年次計画の達成に向けて事業に取り組みます。

26年度 年次計画 目標	1	スポーツ大会や教室事業等の参加者数及び施設利用者数の合計を1,000万人以上にします。
	2	市民主体の地域スポーツ活動を支援することで事業を展開する団体数を200以上にします。
	3	スポーツ情報に関するホームページ総アクセス件数を3,100万以上にします。
	4	経常収益に対する自主的活動収益割合を57.8%以上にします。
	5	自主自立化に向けた人材育成を進め、部長以上の固有管理職を5人以上にします。

(2) 業務の改善検討

自立的財政基盤の拡充と、組織の活性化・効率化に向け、各部署内の課題を整理します。また、次期指定管理者の指定に向けた改善を最優先課題とし、利用者サービスの向上や、事務の効率化を進めます。

(3)危機管理体制の取組

市民が安全・安心・快適に施設を利用ができるよう、スポーツセンターをはじめ各施設の総点検や職員に対する指導・研修を実施し、日常の危機管理体制の基礎を整えます。

また、日産スタジアムや横浜国際プール、横浜文化体育館における大規模イベントの開催にあたっては、特に主催者、関係機関との連携を徹底して危機管理体制を強化します。

(4)社会的責任に対する取組

ア 個人情報保護マネジメントシステム運用業務

個人情報保護マネジメントシステム（PMS）を維持・運用し、引き続きプライバシーマーク（Pマーク）付与事業者となることで、個人情報の保護を推進します。

イ 内部・外部監査業務

公益認定の条件である、情報開示の適正性を証明するため、また、公益法人会計基準(平成 20 年基準)への対応を正確かつ適正に行うため外部監査業務を専門家に委託して実施するとともに、内部統制機能を高めるため内部監査業務を実施します。

(5)賛助会員事業

協会の理念やそれに基づく事業展開を、市民や企業に広くアピールし、その活動に賛同を得ることで、賛助会費や協賛金として自主財源の確保を目指します。

(6)専門委員会及び連絡協議会との連携

協会の事業を推進するために必要な専門委員会及び連絡協議会を設置し、加盟団体から選出された委員と連携し、協議・調整・調査及び研究を行います。

ア 専門委員会

- ・ 総務委員会
- ・ 競技委員会
- ・ 市民スポーツ委員会

イ 連絡協議会

- ・ 加盟団体代表者会議
- ・ 区体協代表者会議

(7)創立100周年記念事業の準備活動

平成 41（2029）年の創立 100 周年記念事業等の実施に向け、引き続き準備を行っていきます。

(8)基金の運用

ア ワールドカップ決勝戦開催記念基金の運用

横浜市からの補助金を基に、「2002 F I F Aワールドカップ」の決勝戦開催を記念した基金を、横浜市、(一社)横浜サッカー協会等で構成する運営委員会により運用します。

イ 横浜こどもスポーツ基金の運用

寄付を原資として、障害のあるこども、恵まれない環境のこども達等へ、横浜のスポーツを通じて、支援・援助することを目的に「横浜こどもスポーツ基金」を運用します。また、ホームページによる啓発・事業報告等を実施していきます。

(9)駐車場の運営

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場のほか、東神奈川、馬場町の駐車場の運営を行います。

得られた収益は、当協会の公益事業を実施する財源として充当します。

加 盟 団 体 一 覧

◆競技団体(51 団体)

横浜野球協会	横浜市ソフトボール協会	横浜市カヌー協会
横浜野球連盟	横浜市体操協会	横浜市ゲートボール連合
横浜市テニス協会	横浜市ホッケー協会	NPO 横浜市ボート協会
NPO 横浜ソフトテニス協会	横浜市バドミントン協会	横浜市太極拳協会
一般社団法人横浜水泳協会	横浜バスケットボール協会	横浜市少林寺拳法連盟
横浜市卓球協会	NPO 横浜市馬術協会	横浜市ゴルフ協会
横浜市弓道協会	横浜市剣道連盟	横浜アイスホッケー連盟
一般社団法人横浜サッカー協会	横浜市アマチュアボクシング協会	横浜市インディアカ協会
横浜市ラグビーフットボール協会	横浜市レスリング協会	横浜市綱引連盟
横浜市陸上競技協会	横浜市クレール射撃協会	横浜市ダンススポーツ連盟
横浜市相撲連盟	横浜市ライフル射撃協会	横浜市合気道連盟
横浜ハンドボール協会	横浜市ウェイトリフティング協会	横浜市スポーツチャンバラ協会
横浜山岳協会	横浜市なぎなた連盟	横浜市日本拳法連盟
横浜スキー協会	横浜市アーチェリー協会	横浜市バトン協会
横浜バレーボール協会	横浜市ボウリング協会	横浜市トリアスロン協会
横浜市柔道協会	横浜市空手道連盟	横浜市パワーリフティング協会
横浜市ヨット連盟	横浜アメリカンフットボール協会	横浜市グラウンドゴルフ協会

◆地域団体(18 団体)

鶴見区体育協会	保土ケ谷区体育協会	青葉区体育協会
神奈川区体育協会	旭区体育協会	都筑区体育協会
西区体育協会	磯子区体育協会	戸塚区体育協会
中区体育協会	金沢区体育協会	栄区体育協会
南区体育協会	港北区体育協会	泉区体育協会
港南区体育協会	緑区体育協会	瀬谷区体育協会

◆学校団体(3 団体)

横浜市立小学校体育研究会	横浜市立中学校体育連盟	横浜地区高等学校体育連盟
--------------	-------------	--------------

◆体育団体(1 団体)

横浜市レクリエーション連合 (構成団体)		
・横浜市フォークダンス協会	・日本ターゲットボール協会	・日本サーチウオーク協会
・横浜市民踊協会	・横浜市ターゲット・ハートゴルフ協会	・横浜市グループワーク・トレーニング協会
・横浜市レディース卓球連盟	・横浜市ペタンク協会	・横浜市スクエアダンス連絡協議会
・横浜市オリエンテーリングリーダークラブ	・横浜レク・フラダンス市民の会	・よこはまレクリエーションの会
・横浜市レクリーダー協議会	・横浜市健康太極拳の会	・横浜市レクハーモニカの会明日葉



公益財団法人横浜市体育協会
〒231-0015
横浜市中区尾上町6丁目81番地
ニッセイ横浜尾上町ビル内
TEL 045-640-0011(代表)
FAX 045-640-0021